

吉田賢抗著「論語第498章五美四悪とは」新釈漢文大系、明治書院 1960年5月25日刊を読む

## 論語第498章「五美四悪」とは

1. 子張孔子に問ひて曰く、何如なれば斯れ以て政に従ふ可きかと。

子張が孔子に向かって、「いかなることができるようになれば、政治を担当することができますでしょうか」とたずねた。

2. 子曰く、五美を尊び、四悪を屏くれば、斯に以て政に従ふ可しと。

孔子は、「五つの美德を貴び行い、四つの悪い行いを除けば、政事に従事させることができる」と答えた。

3. 子張曰く、何をか五美と謂ふと。

子張、「五美とは何を申しますか。」

4. 子曰く、

孔子、

- (1) 君子は恵にして費さず、

「君子は人民に恵み深くするが、さりとしてその富を浪費してはならぬ。

- (2) 勞して怨まず、

君子は民に骨折りの仕事をさせるが、さりとして民が怨むようではいけない。

- (3) 欲して貪らず、

君子は欲望があるが、さりとして他人のものを貪り求めることがない。

- (4) 泰にして驕らず、

君子は泰然とゆったりしているが、さりとして人におごりたかぶることがない。

- (5) 威ありて猛からずと。

君子は自然に備わった威厳はあるが、さりとして他人を害うような猛々しさはない。これが『五美』というものだ。」



5. 子張曰く、何をか恵にして費さずと謂ふと。

子張、それでは恵にして費やさずとはどういう意味でございますか。



6. 子曰く、

孔子はこの質問に答えて、「五美」の内容を詳述した。

(1) 民の利する所に因りて之を利す。

民が自分たちの利となると思うことによって民に利を与えていく。

斯れ亦恵にして費さざるにあらずや。

つまり民が農業開発とか、山林開発を利とするなら、それに都合のよいような政治をすれば、これが恵にして費やさずということになるのではないか

(2) 勞す可きを扱ひて之を勞す。

人民を使役するだけの理由が十分ある事柄で民に骨折らせれば、

又誰をか怨まん。

人民は喜んで働いて誰も怨むことがない。たとえば、水害に苦しむ民に、水防作業をさせたら、誰を怨むことがあろうや。

(3) 仁を欲して仁を得たり。

又君子の欲するところが正しい道であって、仁なら仁道を得たいと欲したら、

又焉んぞ貪らん。

伯夷と叔斉が仁を求めて仁を得たように、民心が仁道に向かって作興されれば、これ以上何をむさぼる必要があろうか。

(4) 君子は衆寡と無く、小大と無く、敢て慢ること無し。

又君子は相手が大勢でも少数でも、事が大きくても小さくても、かかわりなく、又相手をあなどり馬鹿にすることなく、

斯れ亦泰にして驕らざるにあらずや。

常にゆったりとして、しかも謙虚だから、これはまた泰にして驕らずということではないか。

(5) ① 君子は其の衣冠を正しくし、其の瞻視を尊くし、儼然たり。

又君子は衣冠を正しく身につけ、目のつけどころに心を用いてキョロキョロしないから、

その容子が儼然となって、

人望みて之を畏る。

人が望み見て、おのずから畏敬の念を生ずる。

② 斯れ亦威ありて猛からざるにあらずやと。

これが威あって猛からずということではなかろうか。以上のことが五美というものである」と。



7. 子張曰く、何をか四悪と謂ふと。

子張、「ではどうのことを『四悪』といたしますか。」

8. 子曰く、

孔子は「四悪」について次のような説明をした。『四悪とは虐・暴・賊・吝の四つだ』

(1) 教へずして殺す、之を虐と謂ふ。

君子が教育を怠って、人民に為すべきことと、為すべからざることを教えないで、罪を犯したからとてこれを殺すのを「虐」という。

(2) 戒めずして成るを視る、之を暴と謂ふ。

平素人民に注意や警告を与えて命令に服するように導くこともせず、俄かに人民に向かって事の実績を示せと迫るのを「暴」というのだ。

(3) 令を慢にして期を致す、之を賊と謂ふ。

次に命令をゆるがせにしておきながら、最後の期限を嚴重にせき立てるのを「賊」、民の生活をそこなうというのだ。



(4) 猶しく之れ人に与ふるなり。

どうせ与えねばならぬものであるにかかわらず、その物を与える場合に、出納の吝なる、之を有司と謂ふと。出し惜しみをするのが吝であって、それが有司・官僚というもので、君子のなすべきことでない。

以上の四つを「四悪」といって、政治家のよくよく戒めねばならぬもののみである。

<解説>

9. (1) 「五美」「四悪」の箇条の内容で言うところは、まことに尤もで異議の余地がない。

(2) 政治を問うた者に告げるものが多いが、これほど備わったものはまだない。

(3) 故にこれを記録して、帝王の治に継いだもので、孔子の政をなす方法を知ることができる。

きわめて適当な官吏訓といえよう。

(4) 最後の「出納の吝なる、之を有司と謂ふと」の一語に至っては、官僚根性を辛辣に指摘したもので、孔子の時代でもそうであったのかと苦笑を覚えるが、しかし、なお恐るべきは、官物を勝手に出すところの汚職の多いことだ。

(5) 道義の頹廃もいよいよその極に来たようだ。

<コメント>

孔子の教えを弟子たちが 499 の章にとりまとめた「論語」の第 498 章、「五美四悪」。政治家のみならず、リーダーや人にものごとを教えることを仕事とする「先生」の心構えとして、「教えずして殺す、これを虐という」参考になります。